

人間発達学専攻人間発達学コースの概要と特色

本専攻の人間発達学コースは、人間の生涯発達研究上で重要な人間性の形成に関する基礎的問題、心理的適応と心の健康及び障害児に関する問題、また生涯発達の基盤となる感性や身体の健全発達の問題等を専門的に考究するコースである。併せて新しい時代の人間発達研究の学術的知見がもたらした総合生命観に基づいて、「新しいパラダイムによる人間についての発達観」の創出を試みる場となることを目指している。

1. 人間発達学コースのディプロマ・ポリシー

本専攻の人間発達学コースに2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格すれば、修士（学術）の学位が授与される。

- (1) 発達基礎論、発達支援論にかかわる高度で専門的な知識と研究能力、技能あるいは技法を習得し、それらを社会に還元できる専門性と実践的視野を兼ね備えている。
- (2) 諸課題に取り組むにあたり、修得した知識と研究能力、技能あるいは技法を生かして、発達基礎論、発達支援論の視点とともに、人間科学の諸領域の知見や、人間科学の視点である学際性・総合性を踏まえることができ、倫理的配慮をもって様々な人々と協働して社会に貢献ができる。

2. 人間発達学コースのカリキュラム・ポリシー

発達基礎論と発達支援論のふたつの観点からの統合的人間発達研究による、その全体像の把握を、本コースのカリキュラム構成に反映させている。

第一の観点は、脳発達の最新の知見を中心とした発達の普遍的側面の研究である。この普遍的側面からの研究を、カリキュラムの研究分野欄では「発達基礎論」と命名し、新しい発達観の創出基盤を究明する。

第二の観点は、生命の主体者としての個人の側面からの発達研究である。個々の人間は、人それぞれに異なる。したがって心身の発達研究には、幾通りかのパターンまたはライフ・スタイルがある。そのなかでいかに健全な発達を追求・促進するかは、重要なことである。また、人間は生活している文化のなかで発達を促進させる。なかでも発達初期での情操教育的要因の影響力は見逃せない。第二の観点は、これらを単に統合したものではなく、教育学、児童文学、芸術等を通して、理論を踏まえた実践的教育の側面から「発達支援論」として論じることにより、人間発達理解の深化を目指し、情操教育を中心とした発達の文化的側面から人間の発達を解明する。このことにより、教職志向の学部生の受け入れだけでなく、現職の幼、小、特別支援学校の教員のレベルアップを図ることも意図している。

加えて、人間発達を学校等の教育現場で的確に深く把握するため、「専門関連科目」として心理学と教育学に関する実践的科目を配置している。

3. 人間発達学コースのアドミッション・ポリシー

本コースでは、発達基礎論、発達支援論にかかわる専門的な知識と研究能力を持つとともに、多様な研究課題に取り組む研究態度を持った学生を求める。本コースを志願する者は、学部において心理学、初等教育の教職科目についての履修をしていること、もしくは初等教育の教職経験を積んでいることが望まれる。

本コースを志願する者は、出願時に発達基礎論か発達支援論のいずれかの研究分野を選択することが求められる。

なお、本コースでは、所定の要件を満たし、必要な科目を履修することによって、幼稚園教諭及び小学校教諭の専修免許状を取得することが可能である。